

事業所名

放課後等デイサービスわくわくクラブ

支援プログラム

作成日

令和6年

10月

日

| | | | | | | | | | |
|-----------|-------------|---|-----|-----|---------|---------|---|--|--|
| 法人（事業所）理念 | | わくわくクラブは、障がいのある子どもたちが、地域であたりまえに生活できることを願い、保護者とともに立ち上げた特定非営利活動法人です。立ち上げの理念を忘れることなく、地域で暮らす子どもたちとその保護者の幸せを願い、保護者のニーズに応じた事業と支援を展開していきます。 | | | | | | | |
| 支援方針 | | 学校とは異なる小・中・高の12年間という長いスパンの中で子どもたちの成長を見守り、その時々に必要な支援について考え、子どもたちや保護者に寄り添いながら、共に育てていくという気持ちで支援に当たります。年代や発達段階に応じた子どもたち同士のかかわりを大切にしつつ、社会生活の基礎を身につけ、将来地域の中で社会生活を送ることができるように支援していきたいと考えています。 | | | | | | | |
| 営業時間 | | 8時 | 45分 | 17時 | 45分 | 送迎実施の有無 | 迎えあり 送りなし | | |
| 支 援 内 容 | | | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | <ul style="list-style-type: none"> 来所時、帰宅時の挨拶や手洗い、靴や上着のかたづけ遊具の片づけなどを習慣化し、自分でできることは自分できるように支援します。 長期休業中の朝の会の司会やおやつ準備など役割を決めて、それぞれが役割を果たし、集団参加できるように支援します。 将来の社会生活を見据え、事業所までの通所や事業所からの帰宅など自力でできる子については、保護者の同意のもと自力での通所、帰宅を進めます。 自力での帰宅や買い物、公共交通期間の利用、体育館、温水プールなど公共施設の利用など社会生活に結び付けた活動を行います。 | | | | | | | |
| | 運動・感覚 | <ul style="list-style-type: none"> 姿勢保持や歩行などに不安定さやぎこちなさのある子には動作法を用いて動作の改善を行ったり、手指の使い方が上手でない子については手指を使う課題を設定したりして将来の社会生活に必要な運動機能を高めます。 触覚過敏、聴覚過敏、味覚過敏のある子どもについては支援計画に明記し、できるだけ配慮しながら対応します。 | | | | | | | |
| | 認知・行動 | <ul style="list-style-type: none"> 発達段階や暦年齢・学校での学習の状況に応じた個別のプログラムを用意します。個別のプログラムを行う際は、わくわくクラブ(新栄町)では1対1もしくは1対2の個別対応で、きずなでは集団の中で仲間と共に学べるように行います。 イラストや文字カードを用いて、今日の予定やマナー、ルールを見える化し、伝えます。 | | | | | | | |
| | 言語コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> 発語のないお子さんや指示理解の難しいお子さんについても、言葉かけを忘れず、できるだけ自分で動くのを待ちます。必要な場合には実物を見せる、指さしをする、絵カード、言葉カードなどを用いるなどして理解できるように配慮します。 朝の会での自己紹介やいろいろな場面での感想発表などを通して、他者の思いを理解したり、自分の気持ちをみんなに話したりすることができるように支援します。 | | | | | | | |
| | 人間関係社会性 | <ul style="list-style-type: none"> 活動の中で守ってほしいことについては、その活動前に子どもたち同士で話しあうなどして社会生活のルールが身につくように支援します。 子どもたち同士で遊べる遊具をそろえることにより、子どもたち同士でかかわることができるように支援します。仲間との遊びが難しい子については支援者が入り、徐々に支援者なしで遊べるように働きかけます。 トラブルが起きた時には距離の離れたところで本人の気持ちをよく聞き取り、くみ取った上で解決策を考えます。 | | | | | | | |
| 家族支援 | | <ul style="list-style-type: none"> 長期休業中は、保護者の勤務時間等に合わせて延長支援を行います。 個別支援計画作成に当たっては保護者や本人の希望や家庭での様子を丁寧に聞き取り、支援に役立てます。また必要な場合には相談支援担当者や学校、子ども未来課と連絡を取りながら計画します。 NPO法人主催の、総会及び懇談会や親子お楽しみ会、卒業生の同窓会、市民フォーラムなどを実施し、保護者同士の交流を図ります。 | | | 移行支援 | | <ul style="list-style-type: none"> 卒後のライフステージを見据え、通学手段や地域での余暇活動、買い物、施設利用の仕方など一人ひとりに応じた支援計画を作成し、支援を行います。 移行支援会議に積極的に参加し情報提供、情報共有を行い、子どもたちの移行がスムーズに進むようします。 卒後についても必要な場合にはアフターケアを行います。 | | |
| 地域支援・地域連携 | | <ul style="list-style-type: none"> 加茂市こども未来課担当者、いんくる相談支援センター相談支援員、各学校担任、コーディネーター等とのつながりを大切に、情報を共有しながら一貫性のある支援にあたります。 家庭児童相談員や保健師など行政職員が携わる子どもについては電話等で連絡を密にし、適切な対応がとれるようにチーム支援を行います。 担当者会議に出席したり、必要であれば会議を主催したりして、多職種連携を図ります。 | | | 職員の質の向上 | | <ul style="list-style-type: none"> 支援会議を行い、一人ひとりの課題について話し合い、共通理解することにより具体的な支援方法を学びます。 経験の少ない職員については、地域での研修会等に積極的に参加してもらい、障害特性や支援方法について学ぶ機会を設けます。 オンライン研修など、年に一度は研修の日を設定し、職員全員で学ぶ機会を作ります。 | | |
| 主な行事等 | | <ul style="list-style-type: none"> わくわくクラブ総会(懇談会) ・避難訓練(5月、10月) ・親子お楽しみ会(10月～11月) ・虐待防止委員会 ・ふるさと加茂応援隊(卒業生同窓会) | | | | | | | |